

環境経営レポート



対象期間: 2023年4月～2024年3月

2023年度版

ND 株式会社 **新潟デック**

2024年6月28日発行

目 次

1	組織の概要	...	1
2	対象範囲	...	3
3	環境経営方針	...	4
4	環境経営目標	...	5
5	環境経営計画と取組状況の評価	...	7
6	環境経営目標の実績とその評価	...	8
7	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	...	12
8	代表者による全体評価と見直しの結果	...	12
9	次年度の環境経営目標及び環境経営計画	...	12

1 組織の概要

(1) 事業者名及び代表者名

株式会社 新潟デック

代表者 代表取締役 山田 富市

(2) 所在地

本社 〒950-0951

新潟市中央区鳥屋野4丁目18番21号

TEL : 025-284-7211

FAX : 025-284-7215

営業所

長岡営業所 〒940-2127 新潟県長岡市新産4丁目3-5 TEL 0258-89-8835

上越営業所 〒943-0873 新潟県上越市大字西田中42-8 TEL 025-525-2725

北区営業所 〒950-3102 新潟県新潟市北区島見町3399-4 TEL 025-255-4560

西蒲営業所 〒953-0065 新潟県新潟市西蒲区下和納249 TEL 0256-72-0615

秋葉営業所 〒956-0031 新潟県新潟市秋葉区新津4533番3 美並ハイツ101号

TEL 0250-47-4922

柏崎営業所 〒949-4135 新潟県柏崎市西山町坂田1876-1 TEL 0257-47-7515

(3) 環境管理責任者名及び連絡担当先

環境管理責任者 営業部次長 濱田哲範

連絡担当者 長谷川加代子

TEL : 025-284-7211

FAX : 025-284-7215

(4) 事業内容

土木工事業、とび・土工工事業、塗装工事業、道路標識および保安用品販売業

(5) 事業の規模

項 目	単位	2023年度
工事件数	件	479
従業員数	人	21
売上高	百万円	45,312.00
事務所床面積	m ²	469
資材置場面積	m ²	219

(6) 資本金

2000万円

法人設立年月日

昭和52年3月22日

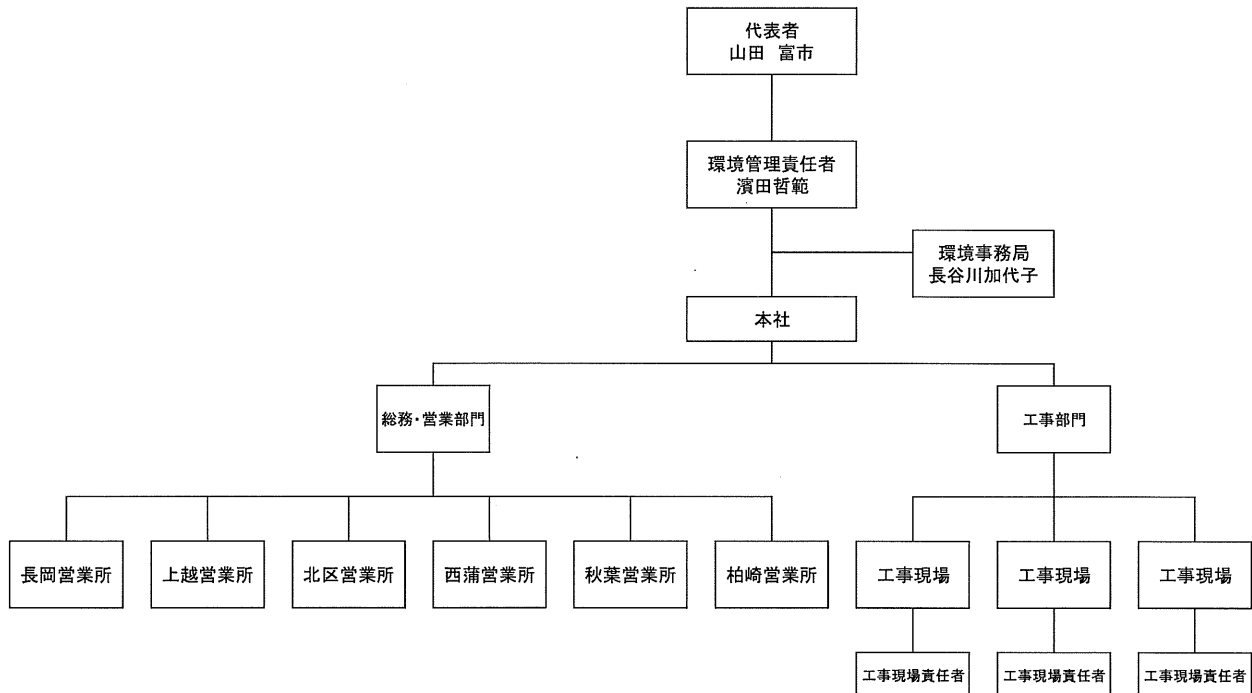
(7) 環境負荷の実績(全社)

項 目	単位	2023年度
電力使用量	kWh	24,690
化石燃料 使用量	ガソリン	ℓ 17,863
	軽油	ℓ 16,461
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	101,139
水資源投入量	m ³	208

・購入電力の二酸化炭素排出係数は、2021年度東北電力㈱の調整後排出係数0.488 k g-CO₂/kWhを使用

(8) 組織図

株式会社 新潟デック 環境管理実施体制



(9) 事業の許可概要

(ア) 建設業の許可内容

許可区分	許可番号	許可の有効期限	建設業の種類
特定建設業	新潟県知事 許可(特一3) 第4710号	令和3年6月30日から 令和8年6月29日	土木工事業、とび・土工工事業 塗装工事業、解体工事業

2 対象範囲

(1) 認証・登録の範囲

全組織・全活動をエコアクション21の活動の対象とする。

(2) 環境経営レポートの対象期間及び発行日

対象期間	表紙に記載のとおり
発行日	表紙に記載のとおり

環境経営方針

基本理念

私たちは、交通安全施設の整備を業とし、安全な道路にするため、日々課題を検索し、業務に邁進しています。地域社会に貢献するという経営理念のもと、社会的課題である交通安全の確保及び地球温暖化対策に積極的に貢献する活動を全員参加で推進します。これを実現するため、下記の行動指針に基づく活動を行うとともに、経営における課題やチャンスを踏まえ、環境経営の継続的な改善に努めます。

行動指針

- 1 電力や化石燃料の効率的な使用を行い二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 2 車両・工事車両のエコドライブ、エコ運転を行い、安全の確保、省エネを図ります。
- 3 建設廃棄物の再資源化を進め、廃棄物の排出抑制に努めます。
- 4 水は大切に使用し、節水に努めます。
- 5 交通安全の向上に資する施設の整備、普及に努めます。
- 6 災害震災等の緊急事態に対応出来る常設自己処理水洗トイレ、非常時飲料水としての機能を有する耐震性貯水槽など、環境に優しく低コストな商品の営業展開を計ります。
- 7 環境関連法規を遵守します。
- 8 環境経営方針は、公開するとともに、全従業員に周知し、自己啓発に努めます。

令和6年6月25日制定

株式会社新潟デック

代表取締役 山田 富市

4 環境経営目標

2023年1月からエコアクション21ガイドラインに基づく活動を開始しました。2022年度～2025年度までの中長期（4年間）の環境経営目標を本社及び各営業所について下表のとおり定めました。営業所はテナント事務所で秋葉営業所を除き、電力使用量の把握は行われていません。このため営業所の環境経営目標は、秋葉営業所の電力使用量及び各営業所のガソリン使用量について定めています。

本社

中長期の環境経営目標（2022年度～2025年度）

項 目			単位	基準実績	環境経営目標				
					2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
				2021年4月 ～2022年3月	2023年1月 ～2023年3月	2023年4月 ～2024年3月	2024年4月 ～2025年3月	2025年4月 ～2026年3月	
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減		kwh	23,483.0	8,606.8	23,248.2	23,130.8	23,013.3	
				8,650.0	0.5 %	△ 1 %	△1.5 %	△1.5 %	
	化石燃料使用量	ガソリン	ℓ	7,715.1	1,754.4	7,637.9	7,599.4	7,560.8	
				1,763.2	0.5 %	△ 1 %	△1.5 %	△1.5 %	
		軽油	ℓ	18,695.2	4,108.0	18,508.2	18,414.8	18,321.3	
				4,128.6	0.5 %	△ 1 %	△1.5 %	△1.5 %	
		LPG	kg	2,274.3	193.8	2,251.6	2,240.2	2,228.8	
				194.8	0.5 %	△ 1 %	△1.5 %	△1.5 %	
	計	二酸化炭素排出量	kg-CO2	84,415.3	19,450.3	83,571.1	83,149.0	82,726.9	
				19,548.1	0.5 %	△ 1 %	△1.5 %	△1.5 %	
	水使用量の削減			m ³	223.0	63.7	220.8	219.7	218.5
					64.0	0.5 %	△ 1 %	△1.5 %	△1.5 %
一般廃棄物排出量の削減 (可燃ごみ)			kg	未把握	実態把握	実態把握	目標設定・管理	目標設定・管理	
				未把握		%			
建設廃棄物の 再資源化の推進			％ (最資源化)	74.4	80.0%以上	80%以上	81%以上	82%以上	
				79.0	+ 1 %	+ 5.6 %	+ 6.6 %	+ 7.6 %	
取得資格の増加			取得数	1件	1件	1件	1件	1件	
				0件	+ 1	+ 1	+ 1	+ 1	
水路転落防止ネットの普及			件	2件	1件	3件	3件	4件	
				0件	+ 1	+ 1	+ 1	+ 2	

* 購入電力の二酸化炭素排出係数は、東北電力㈱2021年度調整後排出係数0.488kg-CO2/kwhを使用

* 再資源化率＝再資源化量/建設排出量 基準年の再資源化率＝9.27 t /11.74 t （79％）

* 化学物質の使用は、発注元仕様にに基づき使用するため、化学物質の削減に係る環境経営目標は設定していません。使用においては、適正な使用と管理を行います。

営業所

中長期の環境経営目標（2022年度～2025年度）

項 目			単位	基準実績	環境経営目標			
					2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
				2021年4月 ～2022年3月	2023年1月 ～2023年3月	2023年4月 ～2024年3月	2024年4月 ～2025年3月	2025年4月 ～2026年3月
				2021年1月 ～2021年3月				
二酸化炭素排出量の削減	化石燃料使用量（ガソリン）	上越営業所	ℓ	1,328.2	334.2	1,314.9	1,308.3	1,301.6
				335.9	Δ0.5 %	Δ 1 %	Δ1.5 %	Δ1.5 %
		北区営業所	ℓ	2,110.0	464.2	2,088.9	2,078.4	2,067.8
				466.5	Δ0.5 %	Δ 1 %	Δ1.5 %	Δ1.5 %
		西蒲営業所	ℓ	1,600.0	508.0	1,584.0	1,576.0	1,568.0
				510.6	Δ0.5 %	Δ 1 %	Δ1.5 %	Δ1.5 %
		秋葉営業所	ℓ	1,570.3	390.9	1,554.6	1,546.7	1,538.9
				392.9	Δ0.5 %	Δ 1 %	Δ1.5 %	Δ1.5 %
		柏崎営業所	ℓ	3,604.1	806.3	3,568.1	3,550.0	3,532.0
				810.4	Δ0.5 %	Δ 1 %	Δ1.5 %	Δ1.5 %
	電力	秋葉営業所	kwh	276.0	75.6	273.2	271.9	270.5
				76.0	Δ0.5 %	Δ 1 %	Δ1.5 %	Δ1.5 %
	計	ガソリン使用計	ℓ	10,212.6	2,503.7	10,110.5	10,059.4	10,008.3
				2,516.3	Δ0.5 %	Δ 1 %	Δ1.5 %	Δ1.5 %
		二酸化炭素排出量	kg-CO2	23,827.9	5,845.5	23,589.6	23,470.5	23,351.4
				5,874.9	Δ0.5 %	Δ 1 %	Δ1.5 %	Δ1.5 %

- * 購入電力の二酸化炭素排出係数は、東北電力㈱2021年度調整後排出係数0.488kg-CO2/kwhを使用
- * 各営業所における化学物質の使用はなく、化学物質の削減に係る環境経営目標は設定していません。
- * 営業所は、テナント事務所で電力、水道は家賃に含まれているため、個々として使用量の把握は出来ませんでした。このため、環境経営目標は設定しておりません。（秋葉営業所は除く。）

5 環境経営計画と取組状況の評価

(1) 環境経営計画と取組結果

環境経営目標を達成するため、環境経営計画を下表のとおり定めました。

各活動の項目ごとに実施状況を責任者が点検し、3段階評価で点検した結果は、下表のとおりです。

実施出来たが更に努力を要する項目がありますが、向上を目指し取組を続けます。

評価基準は、(3:実施出来た 2:実施出来たが更に努力を要する 1:実施出来なかった) の3段階評価です。営業所は各営業所の平均値です。

本社(総務・営業部門)・営業所

項 目			環境活動計画の内容	○活動項目		点検評価結果		次年度の 取組
				本社(総務・営業部門)	営業所	本社(総務・営業部門)	営業所	
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減		・冷房設定温度を28℃を目途に管理する。	○	○	2	3	継 続
			・暖房の設定温度を20℃を目途に管理する。	○	○	2	2	継 続
			・空調フィルターの定期的清掃。	○	○	3	2	継 続
			・使用していないエリアの空調停止。	○		3	—	継 続
			・不使用場所での消灯(トイレ、倉庫、)	○		3	—	継 続
			・長期不使用時のパソコン・プリンターの電源オフ	○	○	3	3	継 続
			・昼休み時の消灯の励行	○	○	3	3	継 続
			・残業時の不要箇所での消灯	○	○	3	3	継 続
			・使用しないコンセントは抜く。	○	○	3	2	継 続
			・業務の効率向上により残業を抑える。	○	○	3	3	継 続
			・効率の良い照明器具の採用を進める。(LED)	○		3	—	継 続
	ガソリン・軽油・LPG使用量の削減	エコドライブの推進	・エコドライブの周知	○	○	3	3	継 続
			・車両の点検記録の管理	○		3	—	継 続
			・車両の運転記録の管理	○		3	—	継 続
			・安全運転教育の実施	○		3	—	継 続
			・低燃費車の計画的導入と維持	○		3	—	継 続
		エコドライブの実践	・急発進、急加速を避ける。	○	○	3	3	継 続
			・シフトアップは早めに、シフトダウンは遅めにする。	○	○	3	2.8	継 続
			・一定速度の走行をする。	○	○	3	3	継 続
			・経済速度での走行をする。	○	○	3	2.8	継 続
			・不要なアイドリング運転を防止する。	○	○	3	2.8	継 続
			・タイヤ圧を適正に保つ。	○	○	3	3	継 続
			・エンジンオイルは適正に管理する。	○		3	—	継 続
		給湯機の適正使用	・温水の無駄な出し放しをしない。	○		3	—	継 続
水使用量の削減		・節水啓発ステッカーを掲示する。	○		3	—	継 続	
		・水の出し放しをしない。	○	○	3	3	継 続	
		・洗車はストップバルブ付きのホースを用い行う。	○	○	3	3	継 続	
		・水漏れを点検し、水漏れを修繕する。	○	○	3	3	継 続	
一般廃棄物の削減 (可燃ごみ)		・縮小印刷・ミスプリントの抑制等によるプリンター用紙の節減	○	○	3	2.8	継 続	
		・廃棄物の保管は分別を徹底し、紙類はリサイクルに回す。	○	○	3	3	継 続	
建設廃棄物の再資源化の 推進		・再資源化を行う処理業者への発注に努める。	○		3	—	継 続	
		・資材の適正調達による残量の減量化を図る。	○		3	—	継 続	
		・発注者の指示に従い、リサイクルを徹底する。	○		3	—	継 続	
		・廃棄物置場の管理を適切に行う。	○		3	—	継 続	
化学物質の適正使用・管理		・シンナー保管容器は、解放・転倒がないよう保管・管理する。	○		3	—	継 続	
		・MSD情報の備え付けと周知を図る。	○		3	—	継 続	
資格取得の増加		・資格試験日程の収集と周知	○		3	—	継 続	
		・資格試験受験の支援	○		3	—	継 続	
水路転落防止の安全ネットの 普及		・普及のための情報発信	○	○	3	3	継 続	
		・必要な箇所については、整備の提案に努める。	○	○	3	3	継 続	

評価基準 3:実施出来た。 2:実施出来たが更に努力を要する。 1:実施出来なかった。

工事部門

項 目			環境活動計画の内容	点検評価結果	次年度の取組
二酸化炭素排出量の削減	ガソリン・軽油・LPG 使用量の削減	エコドライブの実践	・エコドライブの周知	3	継 続
			・急発進、急加速を避ける。	3	継 続
			・シフトアップは早めに、シフトダウンは遅めにする。	3	継 続
			・一定速度の走行をする。	3	継 続
			・経済速度での走行をする。	3	継 続
			・不要なアイドリング運転を防止する。	2	継 続
			・タイヤ圧を適正に保つ。	3	継 続
			・エンジンオイルは適正に管理する。	3	継 続
		工事における省エネ活動	・計画的な施工により効率の良い作業に努める。	3	継 続
			・工事使用車両・設備の日常点検を怠らない。	3	継 続
一般廃棄物の削減 (可燃ごみ)		・縮小印刷・ミスプリントの抑制等によるプリンター用紙の節減	3	継 続	
		・使用済みの封筒を再利用。	3	継 続	
		・廃棄物の保管は分別を徹底し、紙類はリサイクルに回す。	3	継 続	
建設廃棄物の再資源化の 推進		・分別を徹底し、リサイクル量を多くする。	3	継 続	
		・資材の適正調達による残量の減量化を図る。	3	継 続	
		・発注者の指示に従い、リサイクルを徹底する。	3	継 続	
		・廃棄物置場の管理を適切に行う。	3	継 続	
化学物質の適正使用・管理		・シンナー取扱いは、吸入が無いよう作業する。	3	継 続	
		・シンナー保管容器は、解放・転倒がないよう保管・管理する。	3	継 続	
資格取得の増加		・実地技能の継承を進める。	2	継 続	
		・必要な資格が確実に維持されるよう準備する。	2	継 続	
転落防止の安全ネットの普及		・ネット敷設工事の的確な施工を進める。	2	継 続	
		・普及のため、改良を重ねていく。	2	継 続	

(2) その他環境活動の取組状況

- ・工事車両については、燃費基準達成車等省エネ型の車両を1台購入しました。車両入替の際は、燃費基準達成車等省エネ型への導入を計画的に進めていきます。
- ・地元自治会の草刈り活動に参加しています。
- ・KY活動及び外部講師による安全教育講習等を行い、安全の確保に努めています。
- ・3月に本社の照明をLEDに交換しました。

6 環境経営目標の実績とその評価

(1) 環境経営目標の達成状況

エコアクション21ガイドラインに基く活動を開始した2023年4月から2024年3月の12ヶ月間の
本社及び各営業所における環境経営目標の達成状況は下表のとおりです。

ア 本社

軽油使用量、LPG使用量及び水使用量の削減及び建設廃棄物の再資源化の推進についての環境
経営目標は、その目標を達成することができました。一方、電気使用量、ガソリン使用量は、
猛暑のため外気の気温が高く通常よりエアコンの稼働率が増えたり、営業社員の増加により車
両が増えたため、環境経営目標を達成できませんでしたが、削減できた方が多く結果、二酸化
炭素排出量についての環境経営目標は、達成となりました。また、資格取得の増加及び水路転
落防止ネットの普及についての環境経営目標は、目標を達成できませんでした。

本社 環境経営目標の達成状況（2023年4月～2024年3月）

項 目			単位	基準年度実績	環境経営目標	実 績	達成状況
				2021年4月 ～2022年3月	2023年4月 ～2024年3月		評価 ○達成 ×未達成
				使用量又は 排出量	△基準年度比率減率 ▲基準年度比増加率		
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減		kwh	23,483.0	23,248.2	24,408.0	×
					△ 1 %	▲ 3.94 %	
	化石燃料使用量	ガソリン	ℓ	7,715.1	7,637.9	9,843.1	×
					△ 1 %	▲ 27.58 %	
		軽油	ℓ	18,695.2	18,508.2	16,461.2	○
					△ 1 %	△ 11.95 %	
		LPG	kg	2,274.3	2,251.6	1,749.4	○
					△ 1 %	△ 23.1 %	
	計	二酸化炭素排出量	kg-CO2	84,415.3	83,571.1	82,465.2	○
					△ 1 %	△ 2.4 %	
水使用量の削減			m³	223.0	220.8	206.0	○
					△ 1 %	△ 7.6 %	
一般廃棄物排出量の削減 (可燃ごみ)			kg	未把握	264.0	240.0	○
						△ 9.0 %	
建設廃棄物の 再資源化の推進			％ (最資源化)	74.4	80.0％以上	98.3％	○
					△ 5.6 %	△ 24.3 %	
取得資格の増加			取得数	1件	1件	0件	×
					+ 1	+ 1	
水路転落防止ネットの普及			件	2件	3件	2件	×
					+ 1	0	

* 購入電力の二酸化炭素排出係数は、東北電力㈱2021年度調整後排出係数0.488kg-CO₂/kwhを使用

* 再資源化率＝再資源化量/建設廃棄物排出量 基準年の再資源化率＝9.27 t /11.74 t （79%）

2023年4月から2024年3月の再資源化率＝12.27 t /12.92 t （95%）

* 化学物質の使用は発注元仕様に基づき使用するため、化学物質の削減に係る環境経営目標は設定していません。 使用においては、適正な使用と管理を行います。

イ 営業所

ガソリン使用量についての、環境経営目標は、上越営業所で業務の増加のため、目標未達成でしたが、他の北区営業所、西蒲営業所、秋葉営業所、柏崎営業所でいずれも目標を達成することが出来ました。

電力使用量についての環境経営目標は、電力使用量の把握が行われている秋葉営業所について定めていますが、環境経営目標は、猛暑のためエアコンの稼働率が増えて達成できませんでした。電力及びガソリン使用量の二酸化炭素排出量についての営業所全体の環境経営目標は、21.34%の削減が図られ目標を達成しました。

営業所 環境経営目標の達成状況（2023年4月～2024年3月）

項 目			単位	基準年度実績	環境経営目標	実 績	達成状況
				2021年4月 ～2022年3月	2023年4月 ～2024年3月		評価 ○達成 ×未達成
				使用量又は 排出量	△基準年度比率減率 ▲基準年度比増加率		
二酸化炭素排出量の削減	化石燃料使用量（ガソリン）	上越営業所	ℓ	1,328.2	1,314.9	1,824.3	×
					△ 1 %	▲ 37.35 %	
		北区営業所	ℓ	2,110.0	2,088.9	1,125.7	○
					△ 1 %	△ 46.65 %	
		西蒲営業所	ℓ	1,600.0	1,584.0	875.8	○
					△ 1 %	△ 45.26 %	
		秋葉営業所	ℓ	1,570.3	1,554.6	1,061.2	○
					△ 1 %	△ 32.41 %	
	柏崎営業所	ℓ	3,604.1	3,568.1	3,133.0	○	
				△ 1 %	△ 13.07 %		
	電力	秋葉営業所	kwh	276.0	273.2	282.0	×
					△ 1 %	▲ 2.2 %	
計	ガソリン使用計	ℓ	10,212.6	10,110.5	8,020.0	○	
				△ 1 %	△ 21.47 %		
	二酸化炭素排出量	kg-CO2	23,827.9	23,589.6	18,744.0	○	
				△ 1 %	△ 21.34 %		

* 購入電力の二酸化炭素排出係数は、東北電力㈱2021年度調整後排出係数0.488kg-CO2/kwhを使用

* 営業所は、テナント事務所で電力、水道は家賃に含まれているため、個々として使用量の把握は出来ませんでした。このため、環境経営目標は設定しておりません。（秋葉営業所は除く。）

(2) 達成状況の評価

2023年4月から2024年3月の取組期間の環境経営目標の達成状況の評価は以下のとおりです。

① 二酸化炭素は出量の削減

ア 電気使用量

電気使用量についての環境経営目標は、基準年度（2021年4月から2022年3月）の使用量（以下基準年度という。）の1%の削減を目標としました。

実績は、夏の猛暑のため本社及び秋葉営業所のエアコンの稼働率が多くなり目標とおりにはなりませんでしたが、社員全員が体調を崩すことなく業務が出来ましたので、良かったと思います。

次年度は目標を達成するように、2024年3月本社の照明をLEDにしました。

基準年度実績より節電できるように努めます。

イ ガソリン

ガソリン使用量についての環境経営目標は、基準年度実績の1%の削減を目標としました。実績は、本社の営業社員を増員したため、基準年度実績より約27.6%の増加となり、目標を達成できませんでした。次年度は、基準年度を変更しないとまた環境経営目標に達しないと思われますので、2023年度を基準年度にしたいと考えております。

営業所に関しては、北区営業所、西蒲営業所、秋葉営業所の車両をハイブリット車に変更したため、目標を大幅に達成することが出来ましたが、上越営業所の車両はまだハイブリット車でなく、営業活動の他本社の会議に出席するために走行距離が増えたために目標を達成することが出来ませんでしたので、今後の課題となり、これから検討致します。柏崎営業所の車両に関しては、ハイブリット車ではありませんが新しい車両にしたので前の車両より燃費が良くなり、目標を達成できましたので全体的に見れば成果が認められていると思います。

ウ 軽油

軽油は工事車両と工事の機器に使用しています。軽油使用量についての環境経営目標は、基準年度実績より1%の削減を目標としました。

実績は、2023年度は工事車両の入替えや新潟市内及び近郊の工事を多く受注したことにより11.95%削減出来たので目標を達成できました。

次年度は工事場所により変わってきますが、目標を達成出来るように今後も工事における省エネに配慮した活動に努めていきます。

エ LPG（液化石油ガス）

LPGは、本社の給湯用及び工事用（道路の乾燥）に使用しています。

LPG使用量についての環境経営目標は、基準年度の1%の削減を目標としました。

実績は、基準年度より塗装工事の受注が少なかったこともあり、24.1%の削減ができました。今後も工事における省エネに配慮した活動に努めていきます。

オ 二酸化炭素排出量

二酸化炭素排出量についての環境経営目標は、基準年度実績の1%の削減を目標としました。実績は、本社が約2.4%、営業所が約21.3%と目標を達成しました。今後も工事における省エネに配慮した活動に努めていきます。

② 水使用量の削減

水使用量についての環境経営目標は、基準年度実績の1%の削減を目標としました。基準年度より7.6%の削減が出来ました。

今後も節水に努めていきます。

③ 一般廃棄物排出量の削減

一般廃棄物排出量についての環境経営目標は、2023年1月から3月の一般廃棄物排出量66kgを基準としまして、 $66\text{kg} (3\text{ヶ月}) \times 4 = 264\text{kg}$ を1年間の基準とし、9%の削減になり目標を達成しました。2023年度は、ゴミの分類を徹底しましたのでその成果が現れたと思われます。今後もこのようにゴミの分類を徹底して行きたいと思います。

④ 建設廃棄物の再資源化の推進

建設廃棄物についての環境経営目標は、80%以上とし、実績は98.3%で環境経営目標を達成しました。

⑤ 資格取得の増加

資格取得についての環境経営目標は、1件を目標としましたが、該当期間における資格取得はなく目標を達成することが出来ませんでした。
今後着実な取り組みを進めていきます。

⑥ 水路転落防止の安全ネットの普及

水路転落防止の安全ネットの普及についての環境経営目標は、3件を目標としましたが、該当期間における対象工事は2件でしたので、目標を達成することが出来ませんでした。弊社は、水路転落防止の安全ネットの必要性を新潟県内に広めて来ましたので、これから少しずつ安全ネット設置工事が増えていくと思われます。
今後も受注できるように努力して行きたいと思います。

7 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 環境関連法規等の遵守状況の確認結果

当社が規制対象となる環境関連法令は、下表に掲げる法令です。

上記の環境関連法令について、遵守状況を自主点検した結果、違反はないことを確認しました。

NO	関係法令
1	水質汚濁防止法
2	浄化槽法
3	廃棄物処理法
4	新潟市（県）産業廃棄物等の適正な処理の促進に関する条例
5	建設リサイクル法
6	家電リサイクル法
7	自動車リサイクル法
8	新潟市（県）生活環境の保全等に関する条例
9	消防法
10	新潟市火災予防条例
11	フロン排出抑制法
12	道路交通法
13	道路運送車両法
14	オフロード法
15	建設業法

(2) 違反、訴訟等の有無

当社は、関係当局から違反などの指摘は、ありませんでした。

また訴訟もありませんでした。

8 代表者による全体評価と見直しの結果

(1) 全体評価と指示事項

本社の電気使用量及びガソリンの環境経営目標は、夏の猛暑と営業社員の増加があり、目標未達成となった。今後は、今以上に節電をして、車両及び工事使用設備のエコドライブ、エコ運転により、二酸化炭素排出量の削減に努めていく。資格取得数の増加及び水路転落防止ネットの普及に関する目標は、着実な努力を積み上げていくこと念頭に頑張っていきたいと思います。。

(2) 見直しの結果

(ア) 環境経営方針

策定後12か月の経過で、特段の変化はなく変更の必要性はない。

(イ) 環境経営目標

策定後12か月の経過で、状況が変わったため環境経営目標を次回は変える。

(ウ) 環境経営計画

策定時から、状況変化はなく変更の必要性はない。

(エ) 実施体制

現行の実施体制を維持する。

(オ) その他環境経営システム

変更の必要性はない。

9 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

次年度の環境経営目標は「4 環境経営目標」、また環境経営計画については、「5 環境経営計画と取組状況の評価」に記載したとおりです。